

Q28. 流水型ダムが緊急放流となるような洪水とは、どの程度の洪水でしょうか。

- 河川整備基本方針変更の検討において設定した洪水調節ルールを踏まえ、令和2年7月洪水を対象として、実績降雨量の1.1倍から1.5倍とした場合の緊急放流の可能性を検討しております。

表 R2.7 洪水における実績雨量及び1.3~1.5倍の場合の流域平均雨量（12時間雨量）

地点	計画規模	計画降雨 継続時間内 雨量 12時間 (mm)	令和2年7月洪水時の流域平均雨量					
			12時間雨量(mm)					
			実績	1.1倍	1.2倍	1.3倍	1.4倍	1.5倍
人吉 上流域	1/80	298	322	354	386	418	451	483

- その結果、令和2年7月豪雨の実績降雨量1.4倍のケースから緊急放流に移行することが明らかになりました。

1.4倍のケースにおいては、緊急放流には至るものの、放流量が増加しても下図に示すとおり人吉地点においては、ダムがない場合の流入量約13,500m<sup>3</sup>/sに対し、ダムによる洪水調節を行った場合は約8,800m<sup>3</sup>/sと洪水のピーク流量を軽減する結果となりました。

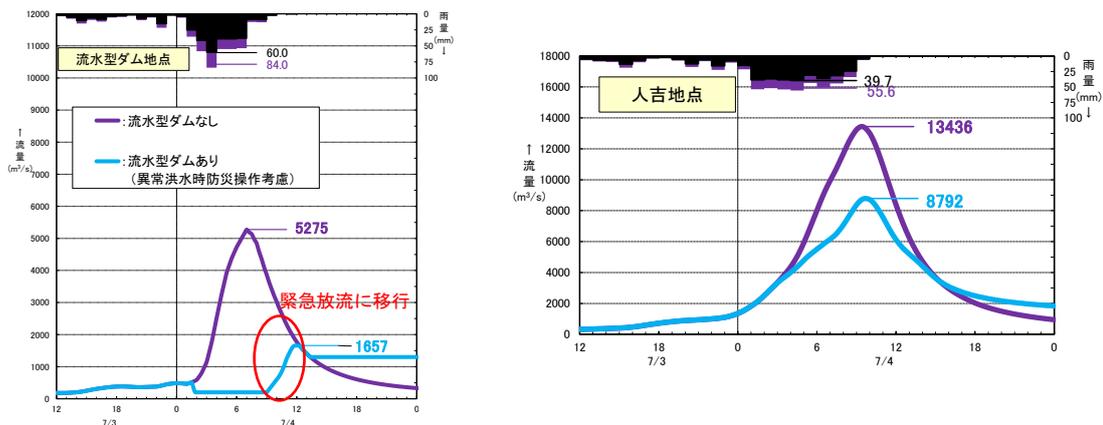


図 令和2年7月洪水波形における降雨量1.4倍のケース

表 実績ピーク流量及び1.3~1.5倍の場合の流量

地点	計画 高水 流量	ピーク流量 <sup>※注1</sup>						
		洪水調節なし				洪水調節あり		
		実績	1.3倍	1.4倍	1.5倍	1.3倍	1.4倍	1.5倍
人吉	4,000	7,892	12,021	13,436	14,845	7,928	8,792	9,628

- 流水型ダムの緊急放流の可能性について確認したい方は[こちら](#)をご覧ください。
  
- なお、流水型ダムの緊急放流の可能性については、「令和4年度 第1回球磨川水系学識者懇談会」において、（資料-3）【意見に対する取組状況と考え方】にてお示ししており、八代河川国道事務所のホームページ[「令和4年度 第1回球磨川水系学識者懇談会」](#)に掲載しています。